

ただいまご紹介いただきましたジェトロの井沢でございます。この後別のセッションでイーチェのバッテリーニ会長とジェトロの固有のセッションがありますので、この場では非常に簡単に私の感想を述べさせていただきます。

一言ジェトロと言いますのは、経済産業省の通商政策のある意味実施機関となっておりまして、こちらで言いますとイーチェと貿易投資促進庁、誘致庁を兼ね備えたような仕事をしているということでございます。いまちょっと日本の貿易、投資について閉鎖的ではないかという議論がございましたが、この議論長くなると思いますのでこの場では避けますが、ジェトロは投資促進について、かなりこまめにかなり真面目にやっておりますので、これはまた別の機会に改めてご説明させていただきます。

私はこの10月にジェトロの副理事長になったのですが、5、6年前にも一度このイタリアの会議に参加したことがありまして、その会議との間に感じた差は今回の会議非常に再活性化されていると、ある意味では日伊間の関係が希薄な部分もありますが、かなり原因の分析もしておりますし、同時にこれからの処方箋についてもかなり突っ込んだ真面目な議論がなされているということで、昨日の荻原政務官の言葉によりまして、結婚20年で再活性化されていると喜んでおります。これも単にイタリア側のザッパ会長とイーチェのバッテリーニ会長、日本側の福原会長、根本経団連名誉会長のご努力だと思っております。そして日本側について言いますと、今回お見えになっていませんけれども甘利経済産業大臣が年明けて数カ月間に2回もイタリアに訪問されておりまして、非常にそのご尽力も今回の活性化に寄与しているのかなと思います。

それからご案内の通り、荻原政務官は皆さんご存知だと思いますが、非常に有名なスキートの複合の世界チャンピオンでございまして、今日本では冬のスポーツと言えば、トリノオリンピックで優勝した荒川静香さん、トリノの世界選手権で優勝しました天才スケーターと言われております浅田真央さんが非常に有名なのですが、我々の世代では荻原兄弟が世界を席巻している、日本のトンバと言われるような選手でありますから一緒にいられることを心から嬉しく思います。

冗談はさて置きまして、今回いろいろ聞いておりますと、日本とイタリアの関係が希薄だと言われておりまして、まさにその通りだと思っております。これはジェトロでいろいろ見ておりますと、ただこれは日本とイタリアだけではなく、日本とヨーロッパが全体的に関係が双方から希薄になっていると思います。この結果いろいろな原因があると思いますが、日本のサイドから見ますと、日本の産業界はここ10数年の間にアジアを主にプロフィットセンターとして見てきておりまして、中国とかインドを含めたASEAN、東アジア全体でいかに最適生産、いかにお金を儲ける仕組みを作るか、いかに東アジアの経済統合を図っていくかに、尽力してきた10数年だったと思います。

同時にヨーロッパ側から言いますと、EUの統合がどんどん進んできておりまして、ユーロ経済がどんどん強くなっている。そんな中でおそらくイタリアもそうだと思いますが、東ヨーロッパにどのくらい拠点を移していくかということで、どんどん拡大して

いったのではないかと思います。こうした状況に加えましてまさにご承知の通り、中国、インドをはじめ、ロシア、ブラジル、BRICs の国々が相当大規模な形で経済成長してきておりまして、ビジネスチャンスがそこに生まれてきているものですから、日本もイタリアもそれぞれそちらにもかなりリソースを割いているということで、一言で言いますと、日本側、欧州側それぞれがそれぞれに対するリソースの配分が少し減ってきたのかなというのが実際でございます。

ジェットロも日本の産業と同じ向きでやっておりますので、昔はアメリカ、ヨーロッパを中心だったのですが、今はリソース、事務所も含めて相当程度、中国を含むアジアに向けて展開しておりまして、最近ではインド、ベトナム、ロシアに力を入れております。どうしてもアメリカとヨーロッパは手が薄くなってきているというのは実態でございます。

ただご案内の通り、まさに地球環境問題が深刻になっていきまして、さらにエネルギー科学が上がってきますと、やはりもう一度技術を持つ日本、技術を持つヨーロッパの力がかなり期待される世の中になっていると思います。そういうこともありますので再度日本とヨーロッパの技術力、それから EU の場合購買力もありますし、日本もそうでございますが、そういったいわゆる経済力ももう一度再活性化していく、協力していく、力を入れていく時期にきているのかなと思うわけです。

現にジェットロのいろいろな調査によりまして、最近では日本から製造拠点をヨーロッパに作る企業の数が増えておりますので、今後この機会を利用しチャンスを活かして一層日本とヨーロッパ、さらに日本とイタリアのビジネスが活性化できますように、ジェットロとしましても少しかもしれないけれども協力させていただきたいと思っております。ではまたよろしく申し上げます。